

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



川島郷分教会

昭和4年12月21日 設立
昭和47年9月26日 移転建築
昭和51年12月8日 鎮座祭
昭和51年12月10日 奉告祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践
項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



立教188年
11月号

秋季大祭講話

年祭の当日を

うれしい心で迎えよう

大教会長様

立教188年大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと役員・部内教会長・布教所長・よぶばく・信者ら多数の参拝のもと執り行われた。

大教会長様は、秋季大祭を勤めるにあたっては立教の元一日に込められた親の思いに立ち返りたい、年祭が目睫の間に迫ったこの旬に、その親の思いにお応えできているかどうかを確認したいとして、この3年間のご自身の成人の歩みを台として、笠岡につながる我々の残された年祭活動期間とその後の歩み方について述べられた。講話内容は次の通り。

ただいまは、この笠岡大教会の立教188年10月の秋の大祭を、皆さんとともに、陽気に勇んで勤められました。今日こうしておつとめを勤められたのも、親神様・教祖・祖霊様のおかげは言

うまでもなく、笠岡につながる皆さんのおかげと、あらためて御礼を申し上げます。皆さん、誠にありがとうございます。

皆さん方におかれましては、日々はたすけ一条の御用のうえに、また教祖140年祭に向かつての年祭活動のうえに、それぞれの持ち場・立場で、一生懸命に努められ、誠に苦労さまです。三年千日と仕切つての年祭活動も残すところ3ヶ月となりました。この時旬に思うところをお話ししますので、お付き合いのほど、どうぞよろしくお願いします。(拍手)

▼秋季大祭の意義

最初に、秋の大祭の意義・意味合いに触れておきます。秋の大祭は、天保9年10月26日に、親神様が教祖を月日のやしろとお定めになり、その身の内に入り込まれて、世界たすけのためのみ教えを始められた立教の元一日を記念して勤めます。秋の大祭を勤めるにあたっては、立教の元一日に込められた親の思い、「世界一れつをたすけたい」という親の思いに立ち返りたい。このたびは、年祭活動も3年目の締めくくりの年を迎えています。この3

年間のそれぞれの年祭活動を振り返ってみて、そして、今現在の自分自身が、「世界一れつたすけたい」という親の思いにお応えできているかどうかを点検・確認する機会としたい。

▼銘々で心定めて通った1年目

そのうえから、私自身の年祭活動をお話ししながら、3年間を振り返ってみたいと思います。

このたびの年祭は、立教185年10月に諭達第四号が發布され、それぞれの直属教会ごとに方針と目標を決めました。笠岡大教会は「つながろう、おやさまのお心に。つながよう、信仰の喜びを。」を活動方針、「ひながたを学び、そのお心を実践しよう。」を活動目標と決めました。そして、それぞれの教会でも、目標と実践項目を定めて、年祭活動を進めました。

年が明けて全教会一斉巡教を行い、諭達に込められた真柱様の思いを確認すると同時に、このたびの年祭活動は、それぞれに心定めて通ろうと申し合わせました。

私はこのたびは、「無いことにとらわれるのではなく、有ることに意識を向け、そのなかに喜び・感謝を見つけ

て通る」ということを心定めとして通りました。

▼ふいを思案し心定めた2年目

そのなか、年祭活動2年目に、自身に見せられた身上を通して、1つのことに気づきました。

おふでさきに、

このよふにやまいとゆうてないほどに

みのうちさハリみなしやんせよ 二号23

めへくのみのうちよりもしやんして

心さだめて神にもたれよ 四号43

とあるように、「起こってくる出来事・物事を通して、そこに喜びと感謝を見出そう」と思案して通っていましたが、その「思案」の先に、神様の思いにお応えするにはどうしようかという「心定め」ができていなかったことに気づきました。そしてそのときには、自分

▼何かと気づいた3年目

そして3年目を迎え、年頭にあたって「陽気に、人だすけの心で通ろう」



年祭活動を振り返って
話される大教会長様

と、皆さんに話しました。

そうして通るなかで、またもう1つ気づいたことがあります。それは、ある人から「挨拶ができていないぞ」と言われたことと、自分自身が運転しているときに見せられたこと、それを通して、教祖が、

やさしい心になりなされや。人を救いなされや。癖、性分を取りなされや。
(逸話篇¹²³)

と教えられているにもかかわらず、私は自分の癖・性分を取ろうと努力することが全くできていなかったことに気づきました。

▼ふいに際しての「思案」

また、この3年目を通るなかで、息子の左手の親指に障りを見せられました

た。「強剛母趾」というのですが、

手の中では、指を曲げ伸ばしする紐が何箇所か輪っかの中を通っています。紐が、紐が太くなつて輪っかを通る動きを阻害し、指が曲がったままになるという姿を見せられました。

おさしづに、

小人々々は十五才までは親の心通りの守護と聞かし、十五才以上は皆めんくの心通りや。
(明治21・8・30)

とあります。「子供は15歳までは親の心通りの姿を見せられている」ということです。また、おふでさきに、

をやくの心ちがいのないよふにはやくしやんをするがよいぞや 三 31

とあります。

息子の指にこうして見せられて、神様からお知らせを頂いたことにまずお礼を申しあげ、そして、この姿を通して何を教えられたのかを思案しました。

「親指が真つすぐにならない姿」ということで、「親」のことかと思うといろんなものが想像できました。「親神様／教祖」とすれば「親神様・教祖の思いにお応えできていないんだろうか? 添えていないんだろうか?」「実

の両親(父／母／もしくは両方)なら、

その「親に素直になれていないということだろうか?／親をないがしろにしてしまっているんだろうか?」、あるいは「真柱様／おぢば／教会本部」なら「真柱様の思いにお応えできていないだろうか? 添えていないだろうか?」

「おぢばの御用を十分に努められていないということだろうか?／おぢばの御用を不足不足で努めてしまっているということだろうか?」と、いろいろ思案しましたが、何かと思いついた。当たる節があつてどれかわかりませんでした。

▼「思案」の先は「心定め」

でも、「思案」の先は「心定め」と申しましたが、今回は「おつとめを勤める／おさづけを取り次ぐ／子供に教えるを伝える」という3つの心定めをしました。

1つ目の「おつとめ」は、大教会の夕勤めが終わった後に、「この人の身上をたすかっていたきたい」と、家族そろつてお願いづとめを勤めるようにしました。

2つ目の「おさづけ」は、そのお願いづとめが終わった後に、息子の指に

おさづけを取次ぐようにしました。4歳でよくわからないでしょうから「今からはつちゃんの指に、おさづけを取り次ぐからね。親神様と教祖に、左手の親指が真つすぐになりますようにつてお願いするからね。」と言って、おさづけを取次いでいます。

3つ目は、年祭活動後半の動きで「毎日、喜び・感謝を声に出そう」と打ち出して、それまでも食事や風呂のときに実践していました。息子に「少しく変えるようにしました。息子に向かつて『ご飯が食べられてありがたいね。ご飯が美味しいね。これも神様のおかげだよ!／お風呂に入れて気持ちいいね。ありがたいね。体がきれいになるね。』こうしてお風呂に入れるのも、神様のおかげだよ。」と、話すようにしました。

そうして通るなかで、あらためて喜べました。息子は、指は曲がついていますが、痛みは全くないようで、全く気にせず、本当に元気に遊び回っていますし、話すのも大好きで、よく話してくれます。そのことがまずありがたいな。そして、家族、誰欠けることなくそろつて一日過ごせること、おつとめが勤められる、ご飯を食べられる、

あらためてありがたいなと思いました。

そうして過ごすなかで、4歳の息子が少しずつ自分でお手振りができるようになってきました。ありがたい姿ですが、今回の障りを見せられてこの心定めをしていなかったら、見る事ができなかった姿だと思うと、あらためて、この神様からのお知らせⅡ身上を通して「思案」し「心定め」をして通るなかで、少しずつ成人できていると感じました。

▼実動につながる「思案」

そして、つい先日、19日の夜のこと、夕づとめで拝礼しているときに、ふとあることが思い浮かびました。

「自分ができていないのではないか。これができていない。これもできていない。」と、ずっと思案していましたが、できていないから見せられたのではなくて、逆に「できていない」と思う自分自身の心が息子に現れてきているのではないかと。そう思うと、「ああ、その通りだな」と、ストンと自分の胸に落ちた気がしました。「できていないな」という自分自身、その事実とは変わりませんが、なぜ見せられたの

かは、自分自身の心が先にそうなっていたから、その姿が息子の指に現れてきた。

年祭活動の心定めとして、「無いものにとらわれるのではなく…」と思つて通つていた自分自身が、「自分自身が無いことにとらわれてしまつていたんだな」と気づけた出来事でした。

では、どうしたらいいか。——できることをするしかないと思いました。「できていない、できていない」と思うのではなくて、「今の自分自身に『世界一れたすけたい、陽気ぐらしをさせてやりたい』という親の思いにお応えするには、何ができるのか。そので

▼たすけ一条で自負できる年祭活動

皆さん、それぞれに年祭活動を通して、もうすでに「これだけさせてもらった」という実感を得ている方もあるでしょうし、そうでない方もあるでしょう。ですが、この年祭活動三年千日仕切つて、どれだけ成人できたかというのは、大きい小さいではなく、人と比べる必要はなく、自分自身がこれだけさせてもらえたと思えるかどうか

だと思えます。

あらためて、この3年間を振り返つて、そして今の自分自身が「世界一れたすけたい」という親の思いにお応えできているかどうかを確認して、もし「できていない」と感じるのなら、今日からでも、それにお応えするために、今の自分自身に何ができるのかを考え、できることを実行・実践しましょう。

▼次の塚につながる「心定め」

もう一点お願いしますが、まず、来年1月26日の年祭当日までの3ヶ月間を、しっかりと通りきつていただきたい。

それと合わせて、年祭活動を終えた後も、我々のこの信仰の歩み／陽気暮らしへの歩みは続いていきます。次の塚——笠岡大教会としては、創立140周年記念祭——その次の塚への向かつての心定めをお願いしたい。

年祭活動だからこそ始めることができた、することができたということもあるでしょう。それを、例えば、継続するということのも1つでしょう。また、三年千日と仕切つて、新たな心定めをするのも1つでしょう。

我々お互いは、親神様の思いにお応えするために、「これを、こうさせてもらおう」という決意・約束が、成人においては、やはり大切だと思います。このことを、お願いしたい。

▼年祭の当日をうれい心で迎えよう

最後に、昨年の秋の大祭で、真柱様は「年祭の当日、おちばへ帰つてきてもこなくても、その日をうれい心で迎えることができるように」と話されました。

これは「おちばに帰らなくても良い」ということではなくて、精一杯努力しても帰れないというのは仕方ありませんが、おちばに帰られても、帰られなくても、年祭当日は、「私は、年祭活動、これだけ成人させてもらえた」といううれい心で迎えて、また、その先の、次の塚への歩みを、新しい心定めをもって始められるように、残り3ヶ月間、また、勇ませ合つて喜ばせ合つて、お通りいただきますように、最後にお願いして、今日の私の話を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

(文責…編集掛・岡崎)

**「眞明組
おやさと伏せ込み
ひのきしん」に参加
布教部**

去る10月26日の秋季大祭終了後、本年2度目となる芦津眞明組につながる6大教会合同での「おちば伏せ込みひのきしん」が実施されました。今回の伏せ込みひのきしんは、境内地除草とパイプ椅子撤収に分かれて実施し、前日25日の第99回青年会総会から26日の秋季大祭にかけて、心配された雨も見事に預けて頂き、みんな一生懸命にひのきしんに励むことが出来ました。

中庭一杯に並べられた4000脚ものパイプ椅子を目の当たりにし、果たして時間内に撤収できるのかと不安になりましたが、大勢のひのきしんの手によって瞬く間に撤去され、引き続き西礼拝場前、更に南礼拝場前の1000脚余りのパイプ椅子も撤収することが出来、改めてマンパワーの素晴らしさを実感しました。1人1人の力は小さくとも、その1が積み重なり大きな働きへと変わる。年祭活動も間もなく終わりを迎えようとするこの旬に、改めて諭達にお示しいただく「全教の

心の一つにしたい」という、一手一つの大切さを感じさせていただき、感謝の心でひのきしんを終えさせていただきました。

最後は一同西礼拝場前に集合し、笠岡大教会長様の挨拶を頂戴した後、記念撮影をして伏せ込みのひのきしんは

終了しました。

今回は笠岡としては352人、眞明組全体では約1550人の参加者のもと、賑やかにつとめさせて頂く事が出来ました。ありがとうございました。

(部長 田中 隆之)



境内地除草とパイプ椅子撤収に分かれてひのきしんに励む参加者たち



集まった1,550人の眞明組教友



最後に(笠岡)大教会長様が代表して挨拶

広島平和公園 外国語パンフレットにをいがけ 海外部

11月6日、部員3人を含む5人で今年2回目のにをいがけに行きました。好天気の中、到着してすぐおちばに向かいよろづよ八首のてをどりをさせて頂いた後、全員で約1時間半、訪日されている外国人の人達へ声を掛けて歩き



おちばに向かい世界平和を
願ってのよろづよ八首

参加者の声

芳井分教会 佐藤 和代

11月6日海外伝道部主催で広島平和公園の中を5人で外国語パンフレット

ました。多くの国から様々な理由で来られている人達と話が出来とても楽しい時間を過ごしました。

(部長 上原 志郎)

を配りに行かせていただきました。記念碑の前では、様々な国の人々が国を超え平和を祈っておられました。話かける事がなかなかできない私は、志郎先生に援護頂く中、オランダ、アメリカ、カナダ、タイ、ポーランド、イタリア、ドイツ、スペイン、モリシヤス(東アフリカ)、スロバキア、オーストラリア、フランス、メキシコの13カ国、約50人ほどの来日の方にをい



たすかりを願っておさづけを



オーストラリアからのグループに
英語パンフレットを

がけさせていただきました。アメリカ軍に勤められていたコロラド州からのご夫婦とお話しできました。奥様の背中への痛みを訴えられたのでおさづけをとお伝えしたらすぐにお願います、と言われた事に感激しながら無事取り継がせていただきました。貴重な経験をありがとうございました。

末の弟のまなざし

11

▼陽気遊びの玄人②

あと2、3この兄について、書かせ

て頂く。

昭和26年か、27年、私は小学生低学年だった。「繁道、従いて来い」會計室の裏に道があったが、そこに1台ボロ自転車がおいてあった。兄はそれに跨がると、「後ろに乗れ」それで、大

久保を過ぎ、須崎通りにはいり、魚屋さんとおモチヤ屋さんの四つ辻を左に曲がって、映画館金星劇場の横のゲーム屋さんの横に自転車を置き、「番しとれ」という事で30分あまり、私は自転車で乗ってぼんやりとしていた。店

からは、賑やかに「赤真ん中34番、白何とか45番……」と賑やかに拡声器からの声が流れ出てくる。しばらくして、出てきた兄の自転車の荷台に乗って、會計室裏の道まで帰って来た。大教会長になったばかりで、憂さ晴らしがし

たかったのかと思う。別れ際、「これからは、会長さんと呼べ」という事だった。この頃、大教会では子供、青年、女子青年が多く、少し年上の人を呼ぶのに、〇〇兄ちゃん、とか、〇〇姉ちゃんとか呼んでいた。郁雄兄ちゃんはやめてほしいという事だったのか。

私と順子が陶山へ行く事となった。

理一前会長は、陶山の会長だったので、神邊の事情のなか、急遽「大教会へ返す」という事で、陶山の会長の話があった。就任奉告祭の後、昼食の席で、当時の陶山の主立った人が客間に集まっていた。郁雄会長の接待をしていた。「陶山に貸すんやで。あんた達、そのつもりで、宜しく頼む。」ここは私の死に場所ではないんだ、私は陶山分教会の新任会長として、歳を召した信者さんの顔をみながら、どうなることやらと思った。結局20余年経って繁次達を置いて、私たち夫婦は大教会に帰って来た。努力はしたけれど、後継会長は信者さんの中から御守護いただけなかった。高田・藤井の両家が社会に出て行かれ、また岡本・浅野の両家が部内教会長として出て行かれている現在、どこまで頑張れるか、「お前、何しとんね。」と叱咤の声が聞こえてきそうなの

昨今である。



先月9日、未信仰の老夫婦が教会の夕づとめに参拝に來られた。理由を聞くと、夕方のその時間、いつも夫婦で散歩しており、毎日同じ時間に聞こえてくる太鼓の音が気になっていったとの事。

登校する集合場所へ妻がこどもを送っている時に、みまもり活動に来ていたその旦那さんに声を掛けられ、太鼓を叩いている所を見てみたいとの事だった。うちの夕づとめは毎日、小学3年になる長女が太鼓を叩いている。その事を旦那さんに伝えると夕づとめに参拝したい、と

の経緯があった。

夕づとめは毎晩6時。開始10分前に來られた老夫婦に、親神様、教祖の説明と、おつとめとは世界中で起こっている戦争の終息と、毎日遣っている心のほこりを払う為につとめているとお伝えし、夕づとめをつとめた。太鼓は、いつもどおり長女がつとめてくれた。

夕づとめが終わってから感想を聞くと、近所で毎日、こんな素晴らしい事がされているなんて知らなかった。大人だけでなく子どもさんも一緒に信仰できているのは本当に感激した、と喜んでお帰りになされた。長女だからできた「にをいがけ」。不思議な出会いに勇ませて頂いた。(よ)

2025若人の集い

スキルを学び人のために

12月7日(日) 笠岡大教会

時間：9時受付開始・9時30分開講
14時解散予定

参加対象：20代～40代までの男女
参加費：500円

内容：講師による基調講演とコース毎の実践授業

申込方法：下記QRコードのフォームを使用

申込締切：11月15日まで

※申込時に希望コース(第1. 第2)を選択して下さい

※託児の必要な方は、フォームで必要事項を回答して下さい

●基調講演講師：福岡毅先生(万国分教会長)

特技の音楽を通して、教会や地域での活動を展開。



●海外コース
韓国を中心に、海外伝道の広がりや、文化などを学ぶ



●リラクゼーションコース
簡単なマッサージの方法を学ぶ



●教理コース
天理教の教えを分かりやすく人に伝える方法を学ぶ



●戸別訪問コース
布教の実践し、その心得を学ぶ



●アートバルーンコース
アートバルーンで創作を学ぶ



●聴き方コース
対話を通じた対人支援を学ぶ

申込QRコードはこちら→

主催：笠岡大教会年祭準備委員会



秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には一れつこどもの陽気ぐらしを楽しみに この世と人間をお創造
下されたばかりではなく 天保九年十月二十六日 教祖を月日のやしろとお定
めになり世界だすけの道をおつけ下され 私達を陽気ぐらしへとお導き下
さっております事は 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は朝夕に
御礼申し上げると共に 親心にお応えするべく 届かぬながらも日夜たすけ一
条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は 立教の元一日を記念しておちばでつとめられる
秋の大祭の理にない 当教会でも只今からおつとめ奉仕人一同明るく陽気
に勇んで秋の大祭をつとめさせて頂きます 御前には遠近を問わず今日の日
を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し 改めて御礼申
し上げる皆の真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますよ
うお願い申し上げます さて今月は秋の大祭の意義と教祖百四十年祭に向か
う歩みを確認するべく直轄教会へ大祭参拝をさせて頂きました また今月二
十五日にはおちばにて第九十九回天理教青年会総会が 翌二十六日の大祭後
には眞明組おやさと伏せこみひのきしん 十一月一二日には最後のようぼ
く一斉活動日が開催されます 教祖年祭に向かって残り三か月 年祭当日を
嬉しい心で迎えさせて頂けるようしっかりと通り切らせて頂く所存ござ
います

何卒親神様には 年祭活動締めくくりにあたりに 親に凭れてたすけ一条
に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして お望み下さる陽気づく
めの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお
願い申し上げます

立教百八十八年 秋季大祭 祭典役割表

祭主		扈者		講話
大教会長様	中島誠治	今川昌彦		

賛者		指図方		十二月講話
高木昭祥	杉原善朗	門脇元教		

役割		区分	
坐り勤	前	後	半

地方			おつとめてをどり			笛			ちゃんぽん			拍子木			太鼓			すりがね			小鼓			琴			三味線			胡弓			
佐藤道孝	吉岡誠一郎	中村義太郎	大教会長様	前会長様	上原繁道	大教会奥様	前奥様	田中ますみ	佐藤真孝	吉岡壽	中村剛	田林久嗣	中島誠治	岡崎真一	上原順子	内海安子	岡崎豊子	上原順子	赤木素志	高木昭祥	虫明立生	田林久嗣	山田敏教	杉原善朗	中村剛史	内海史郎	佐藤真孝	岡崎真一	吉岡誠一郎	三代温生	門脇加津	上原千枝子	山野なつ